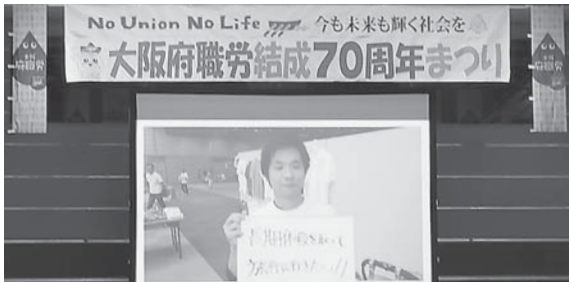


70周年を土台に さらなる飛躍へ

スクリーンいっぱい
映し出された夢や希望



府職労が結成70周年まつりを開催

11月13日、マイドームおおさかで「No Union No Life」も未来も輝く社会をーをメインテーマに府職労結成70周年まつりが開催されました。会場は子どもたちの笑顔と歓声で終日にぎわいました。

あいさつで有田洋明委員長は、地域・住民と共同した府職労のたたかいを紹介し、今後の決意を語りました。午後は松元ヒロさんの「爆笑オンステージ」が会場をわかせました。フィナーレでは参加者のさまざまな夢や希望がスクリーンに映しされ、一人ひとりの願いが実現される社会をめざし、府職労の新たなスタートの幕を開けました。



荒田衛都連委員長の主催者あいさつで始まったレセプション

衛都連は10月29日にシテイプラザ大阪で結成70周年レセプションを開催し、現役の組合員、OBをはじめ各界から多数の来賓が参加しました。多くの方々からのスピーチでは70年の歴史の重みを感じるものとなりました。衛都連運動の軌跡がスライドで上映され歴史を振り返る中で、「地域住民の繁栄なくして、自治体労働者の真の幸せはない」のスローガンの実践をそれぞれの職場、地域ですすめる決意を固めあう場となりました。

衛都連がレセプションを開催

自民党の改憲草案ってどんなもの？

気軽にランチタイムで取り組めた「憲法カフェ」



憲法の理念・理想 学んで広めたい



枚方市職労 三宅美幸さん

今の日本国憲法と自民党の改憲草案とを比較しながら解説していただき、自民党の改憲草案は国家権力をしばる立憲主義とは真逆の国民をしばる性質のものであり、国民は国家のために協力し義務を果たす存在という考えが貫かれていることを知って、恐ろしさを感じました。

同時に、日本国憲法によって自分たちの人権や生活や自由が守られていることをあらためて思い、子どもたちのためにも平和が続くように、憲法の理念や理想を学び広め、大切に守っていくことの大切さを感じました。



自治体職員の仕事が大きく変わる可能性が

枚方市職労 婦人部

枚方市職労婦人部は、ちまたで行われている「憲法カフェ」を一度やってみよう！と、10月16日のランチタイムに、明日の自由を守る若手弁護士会（あすわか）の宮本亜紀弁護士を招いて開催しました。宮本弁護士から自民党の改憲草案がどんなものか、「あすわか」が作成した紙芝居「王様をしばる法」憲法のはじまり」を使ってわかりやすく学ぶことができました。

参加者からは今回の学習を通じて、「日本国憲法の三原則が大きく制限されてしまう！」「私たち自治体職員の仕事も大きく変わってしまうのでは？」などの声が出されました。首相と同じように憲法尊重義務のある私たち自治体職員も、改憲草案の問題点を学ぶことの重要性を認識しました。

民営化でどうなる？

水道の安全・安心・危機管理 持続可能な水道をめざして



シンポでは、大阪市の水道民営化に疑問の声が寄せられた

10月29日に、大阪市の水道コンセンション（公共施設等運営権制度）の問題を取り上げ、近畿水問題合同研究会（大阪自治労連公企評が加盟）が主催したシンポジウムが開催されました。組合員や市民が参加し、水道の広域化や民営化について学習をしました。

シンポジウムでの、大阪府域水道将来構想検討委員会の委員も務めた太田正さん（作新学院大学経営学部長）からの講演では、人口減少に伴う水需要の縮小等で、広域化、民間化がすすめられているが、①共同消費財としての水の利用での技術などを常に確保しつつ、供給義務と安全性に責任を負うこと。②地方公営企業の管理者制度を住民自治による公的ガバナンスの下で改革し、事業特性に応じた「経営と行政の自律的な統合」を図ること。③広域的視点と地域持続の視点もち、まちづくりとの計画的・戦略的な連携を進めること。④利用者である住民を協働者とする事業運営を図り、そのための情報共有を進めることが、水道事業の使命ではないかと指摘されました。

参加者からは、水道の仕組み、制度、おかれている状況、水道民営化について「よくわかった」「来てよかった」との感想が寄せられました。

第25回水とくらしの110番シンポジウム

機動隊員の差別暴言を擁護する松井知事は辞任しろ！



10月21日の府庁前の緊急行動には多くのマスコミも取材に

垂直離着陸機オスプレイのヘリパッド（着陸帯）建設のため、沖縄県高江に動員された大阪府の機動隊員が建設に反対する市民に対して「土人」などの差別発言をした問題で、ことあるうに大阪府の松井知事は、隊員をねぎらい差別発言を擁護しました。そこで10月21日、国民大運動大阪実行委員会などは、府庁前で沖縄での府警機動隊員の差別暴言を擁護する松井知事に対する抗議と、発言の撤回と謝罪、そして辞職を求める緊急行動を呼びかけ、200人の府民が抗議の声を上げました。10月28日には抗議デモ&個人請願行動が行われ、府民は「知事の資格なし、辞任を」と訴えました。

今月のキーワード

低体温

飲料会社のキンキンが行った「子どもの低体温に関する調査」では、小児科医の8割近くが低体温の子どもが増えていると感じており、ここ10年の間に変化して、増加傾向にあると感じているそうです。人間の平熱は、2歳頃で36度台になり、夜眠っている時は低く、日中活動している時は高い、という規則的な体温リズムで生活していますが、低体温は、このリズムが崩れた状態で、体温は35度台になる状態です。「自律神経の動きが乱れ、体温調節がうまくいけなくなると、低体温になる」といわれています。低体温を解消するには、自律神経のバランスを回復することが大切で、規則正しい生活をするのが重要だと言われています。

今月のキーワード

若者の結婚観

国立青少年教育振興機構が、日本の若者の結婚観・子育て観の現状及びそれらに関係する要因を明らかにするため、全国の20代から30代を対象とした27年度の調査結果が11月1日に発表されました。そこでは、「結婚したくない」と考える20歳の男性は昨年度に2割を超え、2008年度の調査と比べ2倍近くに増えました。女性は「早く結婚したい」と「結婚したくない」の割合がいずれも増加し、二極化がすすみました。結婚していない理由として「経済的に難しい」を挙げる人は6割を超え、「若者の収入の低さ」などが要因と分析しています。同時に、「一人が楽である」を挙げる人も約5割あり、男性の方が多い傾向がみられます。

「憲法カフェ」で楽しく学習